



がんこうざくら

含紅桜

延宝四年（一六七六・江戸時代初期）
宮津藩主永井尚長は日吉神社の地をこよなく愛し十六所の勝景を定めて各々の詩を作った
この山桜は当時すでに見事な花を咲かせており 尚長は十六絶の中でこれを含紅桜と名付けて日本一の桜と称えている

含紅桜

爛漫矜春紅藥榮

自是本邦第一名

人有尋來問芳野

巖頭笑指欲然櫻

爛漫として春をたたえ
見事な紅色の桜が咲き
誇っている

誰が言うまでもなく
日本一の桜である

もし誰かが訪れてきて
吉野の桜を聞くことがあれば

今が盛りのこの桜を見なさいと
教えてあげよう

この詩より三百有余年の時が過ぎ 城下町宮津の変遷を
静かに見続ける中で中空となり朽ち傾いてゆく老桜であ
るが 春爛漫の季節には含紅桜の名の通り薄紅色の花弁
を若芽に重ね 当時の藩主の想いを今の代に伝えている